

視察調査報告書

委員 会 名	健幸まちづくり推進特別委員会
参 加 者	委 員 長 鈴木 静男 副委員長 加藤 嘉哉 委 員 大原 昌幸 三浦 康宏 杉山 智騎 畑尻 宣長 山崎 泰信 井村 伸幸 小木曾 智洋
視 察 日 時	令和元年5月14日(火) 10:00～11:30
視察先・概要	兵庫県豊岡市 人口：83,369人 世帯数：32,665世帯 面積：697.55 k ² 特記事項：住みよさランキング2018(東洋経済)総合492位 (安心444位、利便567位、快適548位、富裕617位、住居114位)
視 察 項 目	「歩いて暮らすまちづくり構想」について
視 察 概 要	<p>1 経緯、背景</p> <p>豊岡市では、今後人口が減少し、2040年には高齢者が4割以上となる見込みであることや、生活習慣病での介護認定が7割となるなどの課題があり、自家用車利用率が高い地域性からも、運動習慣が身についている人が少ない状況であった。</p> <p>そこで、平成21年11月のスマートウエルネスシティ首長研究会の発足と同時に、これまでの課題を解決するため、「ポピュレーションアプローチ」、「科学的根拠に基づいた政策展開」、「健康」政策から「健康まちづくり」政策への転換の三つの視点から、庁内メンバーによる「スマートウエルネス豊岡構想検討委員会」と、有識者や関係者による「健康まちづくり構想等検討委員会」の双方で検討し、平成24年に歩いて暮らすまちづくり条例・構想を制定した。</p> <p>2 条例・構想の位置づけと推進体制</p> <p>総合計画の下に「歩いて暮らすまちづくり条例・構想」を据え、各種計画に健康の視点を導入するための指針として位置づけた。</p> <p>推進体制としては、副市長を本部長に据えた市主要幹部による「スマートウエルネス豊岡構想推進本部」(現、歩いて暮らすまちづくり構想推進本部)を平成22年12月に設置し、構想の考え方を市の事業に落とし込む検討や住民説明会の開催を行った。また、平成23年4月には専門部署として「健康まちづくり推進室」を設置した。さらに、平成24年11月には、条例に基づく有識者や関係者による審議会を設置し、施策の評価、進行管理を行っている。</p> <p>3 主な施策</p> <p>(1) 幼児期の全身運動により、脳と心を育てる幼児期の運動遊び</p>

	<ul style="list-style-type: none"> (2) 幼稚園・小学校の校庭の芝生化（46校園中39校園） (3) 重点的に進める運動として「歩キング（ウオーキング）」、「スロ－筋トレ」を設定し、歩キングコース（市内6コース）を整備 (4) 健康増進施設「ウエルストーク豊岡」の開設（平成22年） (5) ポイントを学校へ寄付できる「運動健康ポイント制度」の実施 (6) 週1回、地域の会館等で行う体操を中心とした自主活動応援プログラム「玄さん元気教室」の実施と、教室を支える「健康まちづくり指導員」の設置 (7) 市役所内での健康推進を図るため、「職場対抗“歩キング”選手権」の開催 (8) 運動習慣が少ない子育て世代を対象に、夏休みの1カ月間に親子で取り組む「親子わくわく“歩キング”」の開催 (9) 若年層へのアプローチとして、スマホアプリ「とよおか歩子」を開発し、アプリを通じた運動健康ポイント制度の実施 (10) 「日々の暮らしに+10」を合言葉に、1日プラス10分（1000歩）の呼びかけ
<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<p>・運動健康ポイント制度等の工夫を凝らした取り組みで、市民がマンネリ化しない施策をいろいろと行っており、本市においても参考にできる。市民が気軽に参加できる企画（職場対抗、ポイント寄付）のアイデアが上手である。健康になると、個人としても楽しい人生になるし、行政としても社会保障費が下がる等のウイン・ウインをよりPRしていく施策が必要である。</p> <p>・市内企業に対して健康体操等の導入に向けた積極的な展開を提案する。ごまんぞく体操やげんき館利用者と非利用者との1人当たり医療費を数年間追跡調査することで、抑制効果の検証をしていくことを提案する。</p> <p>・まず平成23年に「健康まちづくり推進室」（職員3名）を設置し、庁内への意思表示ができたことが重要だったとのこと。そこからさまざまな取り組みを行う中、「歩キング選手権」、「運動健康ポイント制度」、「玄さん元気教室」などの成果が実際に数字としてあらわれている点に感心するとともに、スマホアプリを活用し、たまったポイントを小中学校等へ寄付し、それを競わせて盛り上げようといった新たな施策は、本市でもぜひ取り入れていただきたいと感じた。</p> <p>・健康政策は大体の市町が概念的なものや一般論で行っていることが多いが、豊岡市は違う視点で課題を抽出していた。1、ポピュレーションアプローチ、2、科学的根拠に基づいた政策展開、3、「健康」政策から「健康まちづくり」政策への転換。庁内メンバーによる「スマートウエルネス豊岡構想検討委員会」や、有識者や関係者による「健康まちづくり構想等検討委員会」などを経て、歩いて暮らすまちづくり条例・構想へと向かっていった。歩キング、スロ－筋トレの二つに重点を絞って、さまざまな事業を行った。その結果、医療費抑制の効果が見られた。</p>

豊岡市のすばらしいところは、幼児期、小中学生、年配者、職場、親子など、あらゆる世代も健康を意識する事業を行っていることである。また、スマホアプリ「とよおか歩子」を開発、宣伝している。このアプリはたまったポイントを小中学校等へ寄付することができ、歩くことへのモチベーションづくりにも余念がない。本市もアプリ開発を行うが、利用者のことを考え、そして、本市の資産を有効的に活用できるようにしてもらいたい。本市も健康増進だけでなく医療費抑制を前面に出すことにより、市民の皆様の意識が変わると思う。豊岡市のように戦略的に健康まちづくりをされるよう要望する。

・さすがはスマートウエルネスシティ首長研究会の発起人に入っている市だと感じた。構想、計画が先に来て、やはり条例もなければという感覚での条例制定となったことを確認した。大事なことは何か、しっかり捉えた対応であると感じた。本市と同じように車がないと生活に不自由するような地域であるにもかかわらず、歩くということを推進している。とても参考になる視察となった。大きく推進する取り組みの一つに、推進体制がある。「スマートウエルネス豊岡構想推進本部」(現在は、歩いて暮らすまちづくり構想推進本部)を設置し副市長を本部長とした体制をとり、外部の審議会の意見を毎年伺っているということ。これこそ生きた組織であり、副市長が本部長であることで、実効性が担保されているところに、結果が出ているのだと感じた。もう一つ、健康アプリ「とよおか歩子」の活用で、ポイントをためて寄付ができることで、学校やPTA単位での活用が広がると聞いた。これこそが、子育て世代で、みずからの健康は後回しにする世代である健康無関心層に歩くということを広げるツールであると感じた。本市でも健康アプリを製作中であるので、このシステムの導入を提言していくべきだと思った。

・豊岡市は、健康政策から健康まちづくり政策へ転換し、平成24年に歩いて暮らすまちづくり条例を作成、そして副市長を中心にスマートウエルネス豊岡構想推進本部を立ち上げ、現在も進行している。つくって終わるのではなく、現在進行形という形を続けていくことが大切だと感じた。主な施策の中で校庭の芝生化は、本市でもできると子供たちのためになると思う。国保の1人当たりの医療費も県下で一番少ないということは、いろいろなことに努力をしている結果であるので、本市においてもよいところは取り入れてほしい。

・本市も加盟している「スマートウエルネスシティ首長研究会」の立ち上げ時の自治体の一つであり、健康都市となるための取り組みについて参考になる点がいくつか感じられた。草津市同様、職員や市民の意識改革を行う方策の一つとして、庁舎内の踊り場ごとに階段利用による消費カロリーを看板にて掲示することなどが行われており、本市でも採用してはと感じた。また、日々の健康づくりや歩くことでためたポイントを単に景品交換とするのではなく、保育園や小学校などの施設整備のための寄付にしたり、市内の運動施設や温泉施設の利用券などへの交換に活

	<p>用するなど、幼児から高齢者まで幅広い世代に健康づくりに関心を持ってもらい、参画できるような取り組みについても参考にしてみようかと感じた。両市とも、健康に対して無関心な人たちにも健康についての関心をいかにもってもらおうかが課題であると改めて感じた。</p> <p>・豊岡市では、平成23年度に歩いて暮らすまちづくり条例を制定し、翌年度より条例にのっとった構想に基づき各種施策を行い、医療費増加の抑制といった数値での成果も上がっている。しかし、健康に対する無関心層については、どのような周知をしても、施策を行っても届くことはない。無関心層に対し、健康への関心を持たせることは非常に困難であり、豊岡市のように、何とかして関心を持っていただくより、地域コミュニティによる交流の中で健康イベント等に引っ張って来てもらうという考え方は非常によいと感じた。そういった意味で、行政において地域コミュニティは非常に頼りになる存在であることを認識し、現状、高齢者を中心に行っている本市においても、全年齢層へ訴えることのできる地域コミュニティでの健康施策の支援を拡大していくべきであると考えます。</p>
<p>委員長の総括</p>	<p>第一の感想は、市長がスマートウエルネスシティ首長研究会の発起人の1人となっている市の取り組みであり、市長の歩いて暮らすまちづくりへの強い思いや姿勢を感じた。</p> <p>条例制定は、各種計画へ健康の視点を導入するための指針となり、これにより各事業計画・実施計画の展開へと発展しており、条例制定の意義が確認できた。条例の中には、「歩いて暮らすまちづくり構想」、「歩いて暮らすまちづくり審議会」の項目を入れることにより、スマートウエルネスシティの継続的な施策の担保となっており、これらの手法はいい勉強となり、今後の議員としての政策提言活動に生かしていきたい。</p> <p>推進手法として、副市長を本部長とする「スマートウエルネス豊岡構想推進本部」や市の組織に「健康まちづくり推進室」を設けたことにより、市職員や市民へこの取り組みへの大きな意思表示となり、推進へのエンジンとなったと考える。大いに参考となった。</p> <p>取り組みについては、幼児期や園児・小学生への取り組みにより運動習慣を促し、将来の健康無関心層の低減へつながる取り組みで参考となった。また、健康への無関心層への取り組みとして、運動健康ポイント制度のポイント利用先が地元の学校や園であることは、運動不足の子育て世代への運動促進へ有効であり、参考としたい。働く世代へのアプローチとして職場対抗の歩行競争の企画も有効であると考えます。</p> <p>取り組みの評価を医療費抑制という数字、金額で効果を確認して、実際に効果が出ていることを市職員や市民へ周知すれば、さらなるモチベーションアップへつながると考える。本市へ提言していきたい。</p> <p>豊岡市への視察により、条例制定によって、事業の実効性、継続性が得られ、効果のある取り組みがPDCAサイクルによりなされている現状が確認できたことは大変よかった。</p>